

「修験道の今日までそして明日から」 吉野・大峯世界遺産登録20周年記念～

金峯山寺長 臈 田中利典

・プロローグ

- *今年が20年・・・登録当初、よそから、古道でよく呼ばれた。
熊野のおまけ、ではないことを今日は覚えて欲しい
- *金峯山寺というお寺

1) 世界遺産とは？

- ・ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）とユニセフ（国連児童基金）
- ・世界遺産とは？
正式には「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」通称「世界遺産条約」。
これまで対立するものと考えられてきた「自然」と「文化」を、人類全体の宝物として損傷、破損等の脅威から保護し、関係機関が協力して調査・保全することの大切さをうたった条約。自然と文化は密接な関係にあり、ともに守るべきものであるという新しい考え方がここから始まる。1972年の第17回ユネスコ総会で採択された世界遺産条約の締結国数は、現在191カ国。日本も1992年に125番目の締結国として仲間入り。
- ・世界遺産の総数 1199件(文化遺産933 自然遺産227 複合遺産39)
- ・日本にある世界遺産 世界遺産25と無形文化遺産22 *十津川の大踊り(風流踊り)
*日本遺産 104件

2) 吉野大峯の世界遺産登録

- *実は吉野大峯の言い出しっぺは私。
私がいなければ登録はなかった。かつ、絶妙のタイミング・・・
- 「紀伊山地の霊場と参詣道」とは
＝3つの霊場と3つの参詣道
霊場／吉野大峯…修験道の霊場
熊野三山…神道と修験道の霊場
高野山 …真言密教の霊場
参詣道／大峯修行道（大峯奥駈道）
熊野参詣道（熊野古道）
高野山町石道
*日本の多様な精神文化の代表選手
- ★吉野大峯を世界遺産に登録しようと思った3つの目的

3) 修験道と世界遺産「吉野・大峯」

- ①修験道の根本聖地
- ②修験信仰に支えられた吉野大峯の歴史
- ③信仰の全国伝播

- ④明治維新の神仏分離と修験道禁止 *わからなくなった修験道、神仏
⑤法難からの復興

4) 修験道ってなに？

- 1) 山の宗教、山伏の宗教 山修行の意義
- 2) 宗派を超えた実践宗教
- 3) 神仏混淆の多神教的宗教…日本人の祈り
- 4) 現代に生きる宗教

△一般的な修験道の理解

全国土の七割以上を山が占める我が国において、人は古代より山は神仏や祖霊が在す世界であると考え、畏れをもって仰ぎ見た。そしてその世界に入るといことは、聖なるものに触れるという宗教意識に根ざした入山であった。その基層の部分に深く関わるのが修験道であり、神仏混淆の宗教観である。日本古来の山岳信仰に、神道や外来の仏教、道教、陰陽道などが混淆・習合して成立した我が国固有の民俗宗教を修験道で簡単にいうと山伏の宗教。大自然の山中に分け入り、心身を鍛練し、聖なる力、超自然的な神仏の力（験力）を得る者が山伏であり、別に修験者とも呼ばれる。理屈でなく自分の五体を通して、実際の感覚を体得する実践的な宗教。

～拙著『修験道入門』（集英社新書刊）

★そんな修験道はなかった→グローバルな宗教

5) 修験道と世界遺産

20周年に問う・・・世界遺産登録の意義とともに

「ユネスコ憲章の精神」

「カストーデアン」（第一の門番）の自覚

ユネスコの世界遺産に関わるイコモス（国際記念物遺産会議）が定めた『国際文化観光憲章』が「第一の門番（custodian）」を提唱。

カストーデアンとは世界遺産の自然と文化を守っていく役目を担う人々のことを指す。世界遺産吉野大峯の第一の門番（custodian）こそ、世界遺産に関わる行政や地元の人々の意識有る取り組みである。

登録によって、吉野大峯の自然と歴史文化が、今まで日本で起こったいろいろな失敗例と同じようなことに陥らせないためにも、間違った方向の観光開発や地域振興に進まぬよう、世界遺産の第一の門番としての役割を果たす取り組みが必要。

6) 修験道の未来

近代の価値観の見直し・・・

◇修験道の未来的価値観

★日本人の誇りの回復のために普遍という嘘に気づこう！

修験道・奈良ルネッサンス

○エピローグ